

令和5年度第1回
土浦市総合教育会議会議録

1. 日時 令和5年11月13日(月)午後1時より
2. 場所 教育委員会 会議室1
3. 構成員 市長 安藤真理子
教育長 入野浩美
教育長職務代理者 鈴木敏之
委員 福島幸子
委員 高橋信子
委員 石川一幸

4. 構成員以外の出席者

副市長	東郷和男	市長公室長	船沢一郎
教育部長	望月亮一	教育委員会参事	中島健一郎
市長公室政策企画課長	佐々木啓	市長公室政策企画課政策員	鬼脇正臣
教育総務課長	塚本富美代	学務課長	塚本耕司
生涯学習課長	佐賀憲一	文化振興課長	中澤達也
スポーツ振興課長	寺崎敏彦	指導課長	田上秀之
指導課課長補佐	岩田幸一		

5. 次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 教育長挨拶
- (4) 議題 2学期制について

6. 議事内容

教育総務課 皆様、お待たせいたしました。
定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第1回土浦市総合教育会議を開催させていただきます。
本日の司会を務めさせていただきます教育総務課の塚本と申します。どうぞよろしくお願いたします。
会議を始めます前に、資料の確認をさせていただきます。
まず、会議次第、裏面が出席者名簿となっております。そして、議題の資料が2点でございます。土浦市立学校2学期制の概要について、そして、学校年間行事予定比較表、こちらの2点をお配りさせていただいております。過不足等ございませんでしょうか。

なお、本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び土浦市総合教育会議運営要綱の規定により公開といたしますので、よろしく願いいたします。

なお、本日は、茨城新聞社より取材の申込みがございまして、入場いただいております。

それでは、開催に当たりまして、本会議を主催いたします安藤市長より、御挨拶を申し上げます。

安藤市長、よろしく願いいたします。

市 長

皆さん、こんにちは。市長の安藤でございます。

本日は、大変お忙しい中、令和5年度第1回土浦市総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本市の教育行政につきましては、第3次土浦市教育大綱の基本理念である「夢と希望を持ち 誰もが輝く 元気な土浦の人づくり」に基づきまして、未来を担う子どもたちが心身共に健やかに成長できるよう、よりよい教育環境の整備と学校教育の充実に努めているところでございます。

本日は、2学期制について御協議をいただきます。

本市においては、来年度より、小・中・義務教育学校における2学期制の導入を予定しております。従来の3学期制から2学期制に移行することで、どのような効果が期待できるのか、また、本市が抱える様々な教育課題の解決のために、2学期制をどのように利用していくべきか、望ましい学校教育の在り方について協議を行いたいと存じます。

本日は、限られた時間でございますが、委員の皆様方には忌憚のない御意見をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

教育総務課

ありがとうございました。

続きまして、入野教育長より御挨拶を申し上げます。

教 育 長

入野でございます。私からも、教育委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

市長におかれましては、公務御多用の中、このような機会をつくっていただき誠にありがとうございます。

お話にありましたとおり、現在、社会の変化が非常に激しい中で、子どもたちの人材育成をしているわけですが、昨今、様々な制度改革がございまして。今日のテーマである2学期制についても、世の中には賛否両論あるようでございます。そういった中、こういった会議の場で意見交換や議論をすることは非常に重要な機会と思っております。今日は忌憚のない意見交換をしていただいて、今後の土浦市の教育発展のために重要な機会にしたいと思っております。

安藤市長におかれましては、教育委員会の様々な事業に関しまして、今後も御理解、御支援をよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

教育総務課

ありがとうございました。

続きまして、事務局より、資料の出席者名簿に従いまして御紹介をさせていただきますと存じます。

— 出席者紹介 —

- 教育総務課 それでは早速、本日の議事に移ります。
- 市 長 ここからの議事進行は、土浦市総合教育会議運営要綱の規定により、安藤市長に会議の議長をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。
- 指 導 課 ただいま事務局から説明がありましたとおり、議長を務めさせていただきますので、円滑な議事進行に御協力いただきますよう、お願い申し上げます。
- それでは、議題の2学期制について、まずは指導課田上課長より説明をお願いします。
- 指導課でございます。
- 土浦市立学校2学期制の概要について説明をさせていただきます。資料は、A4判の概要について、及び、A3判の年間行事予定比較表の二つになります。
- 初めに、A4判の概要を御覧ください。
- 1の今日までの経緯についてですが、市教育委員会と市学校長会は、令和元年度から2年度にかけて、市小中学校2学期制検討委員会を発足させ、成績評価2学期制実証事業を土浦小と新治学園義務教育学校をモデル校に実施いたしました。その上で、一定の成果を得ることができました。
- その後、令和4年度からの市内一斉導入に向けて、令和3年度中に課題等の整理を行う方向で準備を進めておりましたが、折しもコロナ禍で臨時休業等が相次いだ影響もあり、成績評価2学期制を先行して市内に導入いたしました。未検証となっています学校運営上の課題等については、今年度1年間をかけて整理することで、市民への周知や説明責任を果たしながら、令和6年度からの2学期制導入に向けた準備を進めているところでございます。
- 2の2学期制についてでございますが、1年間の授業日数を前期と後期の二つの学期に分ける制度のことをいいます。3学期制と比較いたしますと、授業日数は変わらず、始業式と終業式の回数が減る分、授業時数は増加するため、児童生徒の学力向上が期待できることや、評価期間が2回になることで事務処理時間を減らすことができるため、教師が心にゆとりを持って児童生徒に向き合うことが期待できるようになります。
- 3の前期・後期の分け方でございますが、10月のスポーツの日を含む3連休を境目に分けたいと考えております。
- 4の長期休業についてですが、現行の3学期制と同様であり、特に変更の予定はございません。学期を分けるいわゆる秋休みは、スポーツの日を含む3連休を充てることで対応を予定しているところでございます。
- 5の実証事業で得られた成果でございますが、1点目として、時間的なゆとりが生まれました。1学期当たりの期間を約100日と長く取ることができますので、日々の授業の進め方に余裕が生まれたことと、成績処理や通知表作成のための事務処理の時間が削減されたことで、教師がゆとりを持って子どもたちに向き合う時間を生み出せるようになりました。
- 2点目として、授業づくりの幅が広がりました。ある程度長いスパンで問題解決型

の授業に取り組めるようになりましたので、子どもたちがペアやグループでの活動を通して自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びの機会が増えました。

3点目といたしまして、個に応じた指導が可能になりました。時間にゆとりが生まれた結果、児童生徒の理解度や到達度に応じた補充や発展学習を各単元で取り入れております。

4点目としまして、より正確な評価を出せるようになりました。年間の授業時数の少ない音楽科や技術家庭科などでは、長いスパンで子どもの学習の経過を評価の視点を増やして見取ることが可能になっております。

6の導入に向けてのスケジュールは、記載のとおり考えているところでございます。なお、この資料には記載しておりませんが、参考までに、県内の2学期制の導入状況についてお話いたしますと、令和5年10月現在、県内全44市町村のうち、23の市町村で2学期制を導入しております。県南地区におきましては、全14市町村中、12の市町村で2学期制を導入しているところでございます。県南地区の地域性を考えたときに、教職員が違和感なく人事異動をするためには、教育環境や勤務条件が揃っているということが重要であり、近隣の市町村と歩調を合わせ進めていくことも必要と考えているところでございます。

続きまして、カラーA3判の行事予定表のほうを御覧ください。

こちらは3学期制と2学期制の学校の年間行事予定を比較した表でございます。こちらを用いて学校行事の視点で説明をさせていただきます。

左側が現行の3学期制、右側が2学期制になっております。

まず、薄い水色で網かけをしております始業式、終業式の比較になりますけれども、3学期制においては、学期に2回ずつ実施いたしますので、4月、7月、9月、12月、1月、3月の計6回になります。一方、2学期制のほうでは、4月、10月に2回、3月、合わせて4回の始業式、終業式を行います。減った2回分は授業に充てることができるので、授業時数は増加する形になります。

次に、中間テスト、期末テスト、いわゆる定期テストについてでございます。赤線で囲んでお示ししました。3学期制では、1学期の5月と6月にそれぞれ1回ずつの2回、2学期は10月と12月にそれぞれ1回ずつの2回、3学期に2月に1回の計5回、定期テストを実施いたします。

一方、2学期制では、1学期に6月と9月の2回、2学期に12月と2月の2回、計4回実施することになります。2学期制では、定期テストが1回減りますので、テスト作成及び採点、成績処理などにかかる時間が削減をされ、その分を子どもに向き合う時間に充てることできるようになります。

次に、成績処理と通知票の配付について説明いたします。赤の点線と黄色の網かけでお示ししました。3学期制では、7月と12月と3月にこれらの業務を行います。

一方、2学期制では、9月に成績を処理し10月に通知票の配付、2月に成績を処理し3月に通知票の配付を行います。成績処理と通知票の作成、配付にかかる事務処理が3回から2回に削減され、その分を授業準備の時間や子どもと向き合う時間に充てることができます。

最後になりますが、2学期制による行事の重なるの解消について説明をいたします。予定表の5月から7月にかけて御覧ください。3学期制では、5月から6月にかけ

て、学校行事である修学旅行や校外学習に、対外行事である市の陸上大会や総合体育大会が重なり、そこに中間テストと期末テストが組み込まれているため、教師も子どもたちもやるのが重なり錯綜している状況がございます。一方、2学期制では、定期テストが6月のみとなりますので、子どもたち、教師共に行事や部活動に集中できるようになります。特に7月は、落ち着いて過ごせるようになるかと思えます。夏休みに向けて、個に応じた指導ができたり、新たな行事を計画して、この7月に組み入れることも可能になります。

次に、個別面談でございますが、現行の3学期制では7月、11月、1月の年3回程度実施をしております。7月と11月の面談の直前に成績処理や定期テストがあるため、面談の準備は多忙を極めてしまう傾向がございますが、2学期制では、7月と11月いずれも、準備の時間を多く取ることができるようになります。このことから、ゆとりを持って教師が子どもたちの面談の準備に取りかかると考えられているところでございます。

土浦市立学校2学期制の概要についての説明は以上になります。御協議よろしくお願いをいたします。

市長

ただいま指導課長から2学期制導入の背景や3学期制との比較などについて説明がありました。委員の皆様は、2学期制の導入について、どのようにお考えになりますでしょうか。期待する効果や懸念される点など御意見を頂ければと思います。まず初めに、学校現場にいらした福島委員にお伺いしたいと思えます。長く現場にいらっしゃっておりますので、学期ごとの学習活動の区切りや期末の校内の慌ただしさなど、経験されていらっしゃると思えますので、そういう部分からも御意見をお聞かせいただければと思います。

福島委員

丁寧な説明をありがとうございました。

私の経験の話をさせていただくと、私が現職の頃からも、2学期にしようという意見は校長会の中でもありました。新治義務教育学校ができたときに、新治と土浦小学校で始めたのですよね。そういう意見は校長のほうからも強い希望が多々ありました。

それは、決して楽をしようという意味ではありません。先生方は、本当に慌ただしい、子どもに向き合う時間もない中で、形として出す成績はどうしてもやらなければいけない。でも、そのために、子どもに向き合う時間、授業をつくる時間が省かれていくという状況の中、先生たちって基本的に真面目ですから、結局、自分の勤務を何とか改善していこうと、そのように動いていたことを思い出します。

結論から申しますと、私は2学期制に賛成です。教師の本当の仕事は、授業をつくること、子どもに向き合って子どもの教育をすることなので、通知表やテストを減らすことで、そこに集中できる環境を行政の立場からつくってあげられるのであれば、その後押しをしてあげたい気持ちでいます。

ただ、学校の行事を余りにも整理してしまうというのは、子どもたちにプラスにならないと思えますので、その精選については、横並びではなく、各学校が持っている特徴を生かしながら、行事を組んでいってほしいなと思っています。

よく、夏休み前に通信簿がないと、子どもの学習意欲、モチベーションが下がるわという、一般的な保護者様からのお話ですけども、本当にそうなのかと疑問に思

います。通信簿をもらってモチベーションを上げるというよりも、もっと普段の単元でのテストで、何ができて、どこが課題なのか、そこをきちんと子どもたちに返していく作業を丁寧にやっていけば、保護者の方の理解も得られると思っています。今年も計画訪問で学校を訪問させていただきました。どこの学校も、うちの学校の課題はこれですと、的確にお話ししてくれるのですけれども、それが授業改善になっているかというところ、そこが繋がっていないところが一番の課題だと思いました。課題は分かっているけれど手が足りていないという状況を改善するためにも、もし2学期制で少しでもメスを入れられるのであれば、これだけ長い時間をかけて検証してきたことであるので、私は後押ししたいと思います。

一つだけ質問なのですけれども、2学期制は前期・後期と呼ぶのでしょうか。1学期・2学期と使ったり、前期・後期と使ったりするのですけれども、統一していくつもりでしょうか。

市長
指導課

田上課長。

今、御質問いただきました呼び方でございますけれども、現時点では前期・後期制という形で、1学期を前期、2学期を後期という呼び名で、学校管理規則を改正したいと考えているところでございます。

福島委員
市長
福島委員

分かりました。

ちょっとお聞きしたいのですが、子どもたちはどのように感じるでしょうか。

子どもたちが一番大事だと思うのですけれども、子どもたちって、季節ごとの区切り、夏休み前に通信簿をもらい、解放されてという、そういう情緒的な面はありますけれども。今の子どもたちは、成績と休みがずれていますよね、ずれていることには、やはり違和感を感じているみたいです。でも、それが2学期であっても3学期であっても、ずれていなければ問題ないと私は思います。子どもたちからは、夏休みの前に通信簿をもらわなかったから云々という意見は聞いていません。

市長

ありがとうございます。

では、鈴木委員、いかがでしょう。

鈴木委員

2学期制の導入ということで今、御説明を受けたところによりますと、かなりメリットのほうが多いというか、今、先生方の働き方改革が取り上げられており、成績表をつけることに大変御苦労されているようなので、それが1回減るということで、その分お子さんたちに向かい合う時間が増えるということで、よろしいと思います。

私が思ったのは、前期と後期の間の休みが、スポーツの日を含む3連休で分けるということなのですけれども、学期の区切りのめり張りをつける意味で、5日くらい休みにしてもいいのではないかと、その分少し夏休みを削ってというか、そういうめり張りをつけるようにしたほうが、よりいいのじゃないかなというふうに感じたのですけれども。

あとは、コロナ禍で学校が大分休みになったときに、欧米と同じように秋を1年の始まりにしたほうがいいのじゃないかというような話も持ち上がったことがあると思うのですが、将来的に、秋を始業という、そういう話は予定としてありますか。そういうこともちょっとお聞きしたいのですけれども。

市長
指導課

田上課長、お願いします。

ありがとうございます。

まず初めに、秋休みについてお話をさせていただきます。確かに委員のおっしゃるとおり、子どもたちの気持ちの切替えや、めり張りを持たせるという意味では、秋休みもある程度設定をしたほうがよいのかなと思う部分もございます。

ただ、今回の2学期制の導入の一番の狙いが、授業時数時間の確保に焦点化をしております、その意味では、秋は大変過ごしやすい季節でもありますので、学習にも行事にも最適な時期と捉えているということと、あと、3連休に何日か足して秋休みをつくるならば、夏休みや冬休みを削り、こちらに持ってくるというのが一番合理的なのかなと思うのですけれども。昨今、夏は猛暑日が大変続いていて、登校させることすら危険ではないかというような、熱中症の事案などもございまして、夏休みを削って子どもたちを登校させる形には、ちょっとしにくいかなというのと、あと、冬休みも、年末年始のイベントが重なっているので、授業日にするというのも、なかなか保護者の理解を得られない部分もあるのではないかとこのところもございまして、総合的に考えた上で、秋休みはスポーツの日を挟んだ3連休で、気持ちを切り替えてリフレッシュしてもらいたいと思っております。

余談になりますが、県南で14のうち12市町村が2学期制を導入しているのですが、その12の市町村は、いずれも、この10月の3連休を秋休みという形でやっておりますので、そのあたり、歩調を合わせていきたいというところも考えているところでございます。

あと、9月から新学期というお話を頂きました。確かにコロナ禍の際に国のほうでも議論になり、国会で審議をする、しないの話になった部分がありました。

けれども、コロナが5類に落ち着いて、現状、結論から申し上げますと、国では新学期を9月に持ってくるという話は特段出ていない状況です。こういった点については、大きな制度改革になるので、国の動向も注視しながら進めていく必要があると思うのですが、現時点で土浦市では、9月を新学期にするという考えは持っていないという状況です。よろしく願いいたします。

鈴木委員
市長
鈴木委員
市長
高橋委員

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

はい。

では、高橋委員、いかがでしょうか。

ありがとうございます。

この比較表なのですけれども、これは実際とちょっと違うのですよね。令和2年度の3学期制と2学期制の間に、現在の、成績は2学期制になって学期は3学期のままというのが挟まれていて、そして、今度の2学期制ということになるのですよね。既に成績評価自体が2学期になってしまっている中で、学期制が3学期になっているというのは、非常にねじれているような形だと思うので、成績評価を前期・後期の二つに分けるのであれば、もう学期も分けたほうがいいのじゃないかなということと、おっしゃられたように、県南地区では、14のうち12とほとんどの市町村が既に2学期制で、今度土浦市が2学期制になったら、ほぼ全てみたいな感じになりますよね。先生方の異動に関しても、2学期制と3学期制では負担が変わってくるの

で、そのあたりは大事ななと思いました。

ただ、お話の中で、学校・教員側が、こうしたいという希望が割と強く出ているので、それがもちろん目的の大きな部分だとは思うのですけれども、それに伴って、逆に、2学期にすることによって、子どもたちにどういうメリットが生まれるのかというところを、特に保護者の方や地域の方に理解していただいて、それならやっぱり2学期にしたほうがいいねと納得感がある御説明ができるといいなと思いました。

そういう意味で言うと、導入に向けてのスケジュールがありますが、12月に広報紙やホームページで先に市民に周知するよりは、保護者の方に事前に説明をした上で、それから一般市民へ周知するというほうがいいんじゃないかなと。広報紙で先に見て、えっ、となるよりいいのでは、と思いました。

あと、鈴木先生がおっしゃった秋休みなのですけれども、私も、やはり秋休みはあったほうが良いと個人的には思っています。確か高校のときも、10月1日から後期で、9月の最後の3日間が秋休みだったのです。その前に文化祭があり、文化祭をやって3日間休んで、さあ、後期ですよというような、気持ちの切替えができたのです。逆な意味で、例えば10月に子どもたちが1週間お休みとなったときに、国などにも、休みをずらしていきましょうという動きもあるじゃないですか。夏休みなどに集中し過ぎてしまう、もっといい季節に旅行してくださいとか、そういった動きもありますし、冬休みだったら少し削ってもいいのでは。冬休みは、お正月がありますが、年末って、御家族が忙しい中で子どものことも見て、少なくともお母様方はとても負担になっているので、学校に行ってくれてもいいのにとというような、そんな意見もあるのかなと。夏休みも、非常にお母様方のストレスが、特にうちで見ていらっしゃる方のストレスが大変だと聞きましたので、夏は暑くてというのはありますけれども、そこはもう一度検討していただいて、保護者の方や地域の方から御意見を聞いてもいいのかなと思います。

一度決めたから、もうこれで行くというのではなく、御意見を聞きながら、少し柔軟に、順次変えられるところは変えていって、なるべくみんなが、ああ、いい制度になったなというふうな形になっていけばいいなと思いました。以上です。

市長
指導課

田上課長。

ありがとうございます。

まず、スケジュールにあります周知方法につきましては、委員から御指摘いただいた点についても、なるほどと思う点が多々ありますので、もう一度精査をさせていただいて、順番等々も含めて考えていきたいと思っています。

2点目に頂きました秋休みの件でございますけれども、秋休みについては、保護者の方々とか、そういった方々の御意見も確かに聞きした上で、最終的に決めていく、決めるのはこちら側になると思うのですけれども、進めていかなければならないと思いましたので、そのような形でできればと思うのですけれども。

今、これはまだ決定事項ではないのですが、ラーケーションという考え方がございます。ラーケーションというのは、1年間の授業日の中で、保護者の方が子どもと一緒に勉強したい、学習したいという日に、年間5日を限度に子どもが学校を休むことができる制度で、その休みは欠席にはならず、出席扱いになるのをラーケー

ションと言っております。愛知県が一番最初に進めたと思うのですが、茨城県では、この制度を県立学校が先んじて来年度から導入する方向で動いていると聞いております。土浦市の意向も聞かれたので、今は来年度からの2学期制の導入に向け動いており、整理がつかなくなってしまうので、来年度は導入はしない、ということで県のほうにお答えしたのですが。近い将来、ラーケーションというような、任意で5日間程度休みを取るという制度も導入される形になりますと、その休みの部分は、保護者が子どもたちと相談しながら設定できる時代になってくるので、あえて秋休みを長くしなくても、そのあたりで合わせて取るような可能性もあるのかなというふうにも思いますので、そういったところも見極めながら、整理をしていきたいなと思っておりますのでございます。以上でございます。

高橋委員

ありがとうございます。

一つだけ。その5日間というのは、5日間連続ではなくて、自由に1日ごと取れるということですか。

指導課

はい。連続でも取れますし、分割することもできます。

高橋委員

なるほど。ありがとうございます。

市長

石川委員は、お子様の保護者という立場でございますので、そういうお立場からも御意見をお願いいたします。

石川委員

よろしく申し上げます。

僕も、結論から言うと2学期制に賛成です。

学校の先生の余裕が子どもの余裕につながるというのを、まさに僕はそう思っています。ただ、先ほど高橋委員が仰ったように、子どもの余裕を確保するために学校の先生の余裕をつくるという考え方のほうが、理解を得られると思います。

さらには、定期テストが1回減ることで授業のこま数が増えるということで、問題解決型の授業に取り組めるので、子どもたちのペアやグループでの活動を通して自分の考えを広げたり深めたりする学習が以前よりも増えたと書いてありますが、僕はこれはすごく大切だと思っております。アクティブラーニングと言われるような授業が増えてきたらいいのになと常々思っています。そのために、定期テスト、点数で比べていくテストを減らし、アクティブラーニングのほうを増やしていくという考え方、僕はとてもすてきだと思いますので、その一環になる気もするので、とてもいいと思います。

先ほど、テストの後に必ず三者面談が入っていたという形ですが、テストの後に面談となると、テストの結果の話になるような気がしています。これからは、生きる力のような、テストで計れない力が結構大切になってくる世の中になると思うのです。ですので、そこも子どもたちの評価に加えてもらえると、子どもたちも、点数を取るのが得意な子と、点数じゃないところが得意な子もいるわけで、そこも評価に入ってくると、さらにいいなと思いました。

先生たちの余裕をつくることで子どもたちの未来につながるというのは、とても良いことだと思いますので、賛成です。

市長

ほかに何か御意見ございますか。

鈴木委員、お願いします。

鈴木委員

今お話を伺っていると、かなり2学期制は良さそうなのですが、茨城県内

市長
指導課

というか、他の2学期制にされた市町村で、2学期制にはしたけれども、3学期制に戻した市町村もあるというふうにお聞きしていますが、それはどういう問題があって元に戻ったのか、分かりましたら教えていただきたいのですけれども。

田上課長。

ありがとうございます。

県内44市町村の中で、正式に3学期制から2学期制に移した後に、また3学期制に戻したという市町村は、現在調べたところではまだありません。関東では埼玉県など、他県でそういった例が幾つか散見される場所がございました。

大体が、今後、我々がこの2学期制を導入するに当たっての留意点にもつながっていくところなのかなと思うのですけれども、元の形に戻している市町村では、まずは、子どもたちの中に、気持ちの切替えがなかなかできないお子さんもいて、2学期制に落ち着かなかったというのがあります。長期休業があって、それが終わると新学期になるリズム感が子どもたちの中であって、それが、長期休業もあるけれども、学期が続いているという流れが、子どもたちの中ではどうしても理解ができないというか、肌で感じ、うまく乗り切れないような形になってしまい、生活リズムを崩してしまうとか、そういうところがあったので3学期制に戻した、という自治体がございました。

二つ目は、課題にもなっていますけれども、成績表の配付の回数が、3回あったのが2回に減ってしまうという、そのことについて、保護者の方々が心配して、やっぱり評価は小まめに欲しいということで、成績の配付によるもの、あと、中学校3年生になると、高校進学や進路指導のスケジュールと2学期制のスケジュールが、これは留意すればうまくかみ合わせることができると我々は考えてはいるのですが、3学期制に慣れてしまっていた保護者や学校現場からすると、それを合わせるのが難しく、元の3学期制でやったほうが進路指導がしやすいと考えた結果、3学期制に戻したという理由がありました。

三つ目は、行事です。従来の学校行事の設定は、3学期に合わせ、長期休業や定期テストに合わせながら組み込んでいきますので、それが2学期制になってしまったがゆえに、空いたところに何の行事を持ってくるのかとか、あとは、今は働き方改革により、行事の精選を一緒に同時に進めていく中で、そのあたりがうまく機能しなくなってしまって、3学期制のほうが行事も考えやすいのではないかというような捉えで、その点も我々は留意しなくちゃならないと思っているのですが、そういう理由で3学期に戻したという自治体がございました。

大きなところでは、この三つが特に印象に残っているところでございます。

鈴木委員

ありがとうございました。

お子さんがリズムを崩してというのは、なかなか難しい問題で、夏休みなど長期の休みがあって、その後、学期が変わるというのは、やっぱりお子さんにとっては、そういうものだという感覚があるのでしょうかけれどもね。

学校行事に関しましては、一旦白紙に戻して、前期・後期に合わせてスケジュールを組み直していくことは可能だと思いますので、それは今後、時間をかけてやっていただければいいかなと思います。

市長

ほかに、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

福島委員、どうぞ。

福島委員

保護者の理解を得ること、もちろん子どもも含めてですけれども、それはとても大事なことだと私は思うのですけれども、学校訪問をして話を伺っていて、もうぎりぎりのところだなというのが正直な印象です。先生たちの仕事ぶりを見ていて、体を壊す方もいらっしゃるでしょうし、子どもだって、不登校であるとか、いじめの問題とか、成績がなかなか伸びないとか、いろいろなひずみが出ていて、これって、今の学校のゆとりのなさから来ているところが多いような気がします。教員も子どもも両方です。そういう意味で、ゆとりをつくっていくことは、楽をするということではありません。普通の生活をしていただければ楽をするようになりますけれども、今ぎりぎりの状況のところでは、違います。健全な教育活動、本当に活気のある学校づくりをするためには、息を吹き込むじゃないですけれども、ここで一度2学期制で気持ちを切り替えてやってみることは、とても大事だと思います。私たちが何十年となじんできたこの3学期制、季節とともに学期が変わるという、これを破るのは全然問題がないとは言いませんけれども、それ以上に、子どもたちを守るためにも、学校にゆとりをあげてほしいというのが私の切なる願いです。以上です。

市長

ありがとうございます。

よろしいですか、皆さん。

石川委員、お願いします。

石川委員

さっき、3学期制で子どもたちの気持ちの切替えがおっしゃいましたけれども、もし分かったらでいいのですけれども、どういう現象が起きるのですか。

指導課

今は、土浦も3学期制で進んでいます。9月1日が2学期のスタートになるのですが、その前日の8月31日は、子どもたちの中には、学校に行きたくないという思いで、気持ちがぐーんと沈んでしまう子もいまして、あまりいい話ではないのですけれども、全国的、統計的なものなのですが、8月31日、9月1日は、お子さんの自殺率の特異日ということになっていて、長期休業が明けの前後に、子どもたちの気持ちが下がってしまうというようなことが起こります。実際に土浦でも、そういうお子さんが、気持ちが上がり下がりしてしまうお子さんがいらっしゃるというのが一つです。

あとは、生活のリズム云々となってくると、当然、部活動とか、そういった活動でも、休業明けに大会が入ってきたりというのもありますので、それらに向けて活動していくというところなんです。また、学期が変わると、教室に行ったときにいろいろ変わるのでですね。席が変わったりであるとか、当番活動が変わったりであるとか、そういう色々な変化が伴うのですけれども、2学期制になると、そういう変化が特になく、休み明けで、はい、前期の続きを行いますよということで始まります。そういったところで変化がない安定感が得られるのですけれども、逆に、変化があったほうがいいのかと思うお子さんもいます。席替えがないよりあったほうがいいのか、これは好き嫌いになってしまうと思うのですが、変化があったほうがいいのかというふうに捉える子どもたちもやはりいるようで。そういったときに、長期休業が終わると新しい流れになって、また新たなスタートが切れる形を望む子どものほうが多いと判

断したところは、3学期制に戻すというところがあって、これは子どもたちの思いというか主観的なものもあるので、難しいところではあるのですが、安定も大事なのですけれども、変化をするということも大事だということ。あとは、気持ちの上がり下がり、学校に行くというのがとっても嫌だというふうに思うようなお子さんたちへの対応であるとか、そういったところなども含めて、いろいろ考えていくと、3学期制がいいのか2学期制がいいのかというのは、なかなか結論は言えないのですけれども。

福島委員が仰るように、そういった気持ちの上がり下がりをしてしまう子どもたちに対応するのは、やっぱり家族であり担任だと思っております。その家族や担任、いわゆる周囲にいる大人が、どれだけゆとりを持って関わられるか、本人に寄り添えるかというのを考えていくと、やっぱり2学期制の持っているメリットというのは大きいとされているところなので、その生活のリズムについては、具体的にこれというふうになかなか示せないのですけれども、そういった状況がございます。

石川委員

分かりました。

僕は2学期制のほうが良いと思っております。

市長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

私といたしましても、2学期制の良さとしては、授業時間で、先生方が子どもたちに向き合うゆとりができるということが、ひいては子どもたちにゆとりができるということで大きなメリットがあるのかなと、御意見を伺いながら感じたところでございます。先生方が余裕を持って授業の計画を立てたり、あるいは、今まで以上に子ども一人一人の学習の達成度などを把握できるようになったりと、いろいろな面できめ細やかな指導が可能になるのではないかと思います。そういった意味で、本市が目標とする教育に近づくのではないかと思いますところで、2学期制について、配慮すべき点はいろいろあるかと思いますが、教育的な効果がより期待できるという意味で、来年度から導入するという方向で進めていくことでよろしいでしょうか。

〔委員一同 同意〕

市長

ありがとうございます。

それでは、2学期制の導入に当たっては、教育委員会において他の先進自治体を参考にしたり、あるいは元年度からの実証事業などを通して、これまで検討を重ねてきたと思います。しっかりと課題を検討した上で、2学期制を導入していく方向でいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ほかに御意見がないようでしたら、本日の議事は以上となります。委員の先生方にはそれぞれ貴重な御意見を頂きまして、誠にありがとうございます。本日頂いた御意見を参考に、子どもたちの学校生活のさらなる充実を目指し、来年度からの2学期制導入に向けた準備を進めていただきたいと思います。土浦の未来を担う子どもたちが、夢と希望を持ち、心身共に健やかに成長できるよう、よりよい教育環境の充実に努めてまいりますので、委員の先生方には、引き続きの御協力のほど、よろしく願いいたします。

円滑な議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。

教育総務課

それでは、事務局に戻します。

では、以上をもちまして、令和5年度第1回土浦市総合教育会議を閉会いたします。
本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。